



第94号

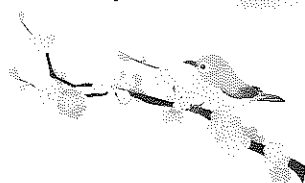
福島県退職公務員連盟
郡山支部
村上光市
印刷 (株)上田印刷
TEL 922-4342

退公連と私の歩み



副支部長

半沢 和



平成13年に退公連の会員となり、入会と同時に女性部の方部幹事や役員幹事となった。念願だった洋裁学校通いや畑仕事を始めるなど、退職後の生活に前向きに取り組んでいた頃がなつかしい。

その後平成18年に役員の交代があり、与えられた席は事務局の一員だった。当時実母の介護もあり迷ったが、先輩のアドバイスもあり引き受けた。以来10余年、庶務の仕事や女性部の新聞「ふれあい」の発行などに携わった。パソコン操作では支えてくれる友がいて大変助けられた。

平成28年、「楽しい退公連に」との支部長の呼びかけで、合唱クラブ「はるかぜ」が結成された。月2回の練習ではあるが活動範囲も拡がり

退公連活動の原動力と楽しみになっている。

令和2年、80歳になったので幹事の役で活動しようと考えていたが、女性部長の席が空いてしまい、その席に着くことになった。役員の高齢化や会員減等の懸案事項もあり、八十路の坂を前に責任の重さを感じた。いつものように周囲の方々の励ましもあり心新たに活動していこうとしていた矢先、予想もしなかったコロナ禍に見舞われ途方に暮れた。心待ちにしていた「楽しい集い」もできなかつたので検討し合った。行動制限下で意気消沈の日々、「音楽で元気になっては？」の意見がまとまった。実施に向け進めていく中で、「合唱クラブの出番、会場は公

会堂で、支部会員や市民の方々に呼びかけて…」との要望が出された。このようにして女性部内のコロナ禍のピンチの中で生まれ、その後、皆様に協力や応援をしていただき「ふれあいコンサート」になった。

4回目となった今年度は、都合により視聴覚ホールになった。課題はあったが、今まで以上に来場者に喜んでいただけたことは嬉しかった。退職後の私の歩みは、退公連とのかかわりが大きい。長いこと活動してきたが反省も多く、中でも現在の女性部の課題は高齢化による役員減である。男女共同参画社会の視点からも活動の見直しを進めたい。

女性部長三期目の今年度は、役員の方々に助けてもらっている。申し訳ない気持ちと同時に嬉しく有り難く、幸せに思っている。

退公連の役員になったからこそ出会えた方々、様々な活動を通して得た貴重な体験の数々。「活動に参加していなかったら、どんな人生を歩んでいたかな？」と振り返る時、自然と心が和んでくる。

役を受ける時の懸念は「家庭との両立」。母や叔母・夫の世話の時期もあったが、時間の工夫や友の励ましやアドバイスで通りぬけ両立できた。退職してはや25年になる。25年の歩みの中で支えて下さった方々、そして家族のお陰と感謝している。

受賞おめでとう！

◆秋の叙勲

☆瑞宝双光章 市川 正道様
(99方部・富久山町)

◆高齢者叙勲

☆瑞宝双光章 遠藤 太様
(26方部・台新)

☆瑞宝双光章 渡邊 喜八郎様
(8・2方部・桜木)

☆瑞宝双光章 古川 将男様
(37方部・細沼町)

☆瑞宝双光章 高橋 昭悟郎様
(59・2方部・喜久田町)

◆郡山市特別表彰

【町内会長としての功労】
古川 将男様 (37方部・細沼町)

◆郡山市教育委員会表彰

【教育功労者】
圓谷 円様 (21・1方部・鶴見垣)

佐藤 常雄様 (26方部・台新)

仲村 巧様 (28方部・鳴神)

ボランティア活動を実施

○11月1日(金)、支部の社会貢献活動の一端として17名の参加で開成山公園の落ち葉はきのボランティア活動を実施しました。



〈ボランティア活動を終えて〉

夢を語り合える

学校経営へ



郡山市小学校長会
会長 酒井 健
(橘小学校長)

退職公務員郡山支部の皆様におかれましては、後継者育成のために、様々なご支援やご指導にご尽力されており、深く敬意と感謝を申し上げます。

現職の賛助会員から

さて、今、学校ではコロナ以前の各行事も行われるようになり、マスクを外した子どもたちの笑顔もたくさん見られるようになってきました。コロナ禍では中止やズームでの開催となっていた各種会議もほとんどが以前と同じように行われています。十月中旬には全国連合小学校長会研究協議会が四国の徳島県で開催され、郡山支部からも4名で参加いたしました。飛行機と高速バスで片道約6時間、鳴門の渦潮が私たちを出迎えてくれました。全国各地から徳島市に一堂に会し、全体会の会場となった「アスティとくしま」は北

海道から沖縄県までの全国の校長先生方で熱気が溢れていました。分科会では、他の都道府県の方々と情報交換ができ、大変有意義な研修となりました。この研修内容は、校長会でも共有してまいります。

今年度も、残り5カ月となりました。今後とも、皆様のご指導のもと、笑顔溢れる、夢を語り合える学校経営を実践してまいります。

学校現場では



郡山市中学校長会
会長 小山 健幸
(郡山第五中学校長)

会員の皆様には、日頃から本市教育にご支援を賜り、感謝申し上げます。

令和6年度は例年になく猛暑が続く、各学校ではそれぞれに工夫を凝らして対応してきました。そのような中、子どもたちは全国大会で活躍するなど、運動面、文化面、両面においてすばらしい成果を収めました。子どもたちの頑張りは見事でした。また、それを支えていただいた各先生方には本当に感謝しかありません。

一方、学校現場では、講師不足、働き方改革、部活動の地域移行、不登校への対応強化など、教育課題も山

賛助会員の皆様へ

令和6年度も退職公務員連盟郡山支部の賛助会員として、多数の現職の方々にご加入いただきました。誠にありがとうございました。令和6年度の加入状況は、次のとおりです。

	加入者数	賛助会費	備考
小学校	696名	139,200円	40校
中学校	432名	86,400円	23校
義務教育学校	11名	2,200円	1校
県立学校	43名	8,900円	3校
計	1,182名	236,700円	67校

現職の方々の温かいご理解とご協力に心から感謝申し上げます。皆様から頂く会費は貴重な活動財源として活用させていただきます。

福島県退職公務員連盟は、(財)日本退職公務員連盟(会員数約12万名)に加盟する全国規模の組織で、退職後の生活の安定と充実のため、

- 公務員年金制度の堅持及び充実を要望
- 医療・介護など社会保障制度の充実と負担軽減を要望
- 地域での社会貢献活動などの推進
- 会員相互の親睦活動と福利厚生事業などの推進

を4つの指針として活動を推進しております。現職・退職にかかわらず、公務員の処遇改善に向けて陳情を重ねるなど、鋭意努力しているところです。

郡山支部(会員数469名)においても、「年金を守る」「社会に貢献する」「親睦を深め元気に生きる」を目標に活動を重ねております。

退職後は、ぜひ入会され、各種行事や会合に参加していただきますようお願いを申し上げます。報告並びにお礼といたします。ありがとうございました。

恒久平和のために



郡山市
県立学校長代表
森下 陽一郎
(安積高等学校長)

積しており、加えて、教員志願者の減少も見られ、働き方改革を進めると同時に教師としての魅力発信をさらに続けていかなければなりません。私たちが教員を志した当時のように夢と希望を持って教職についてもらえよう、今できることをがんばろうと思えます。会員の皆様にもそれぞれのご立場でご支援よろしく願います。

水爆被害者団体協議会が受賞しました。長年の「核なき平和へ」の地道な活動が評価されました。私はSDGs16番目の「平和と公正をすべての人に」を達成することが重要だと考えています。達成により、他課題の解決への糸口が見えて来ます。Well-being社会の到来となります。

未だ平和には程遠い世界情勢ですが、今回の受章を機に、改めて全世界が平和について見つめ直し、平和な社会を目指すことを願います。私も教育をとおして、その雰囲気づくりと規範意識の醸成に努めます。

会員の皆様には、本県教育に御支援を賜り、感謝申し上げます。今年のノーベル平和賞は「日本原

よう、皆様からの御支援と御指導を賜りながら、青少年の育成に努めてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

六年ぶりの福島大会への参加

初秋の爽やかな青空のもと開催された退公連福島大会。令和2年度の会津大会、令和4年度の石川大会がコロナ禍のため相次いで中止となり、今回が6年ぶりの開催となった。私たち退公連会員が待ち望んでいた大会に、本支部からは村上支部長を始めとして役員、一般会員26名が参加した。

開会式での室井勝会長挨拶においては、新会員の減少や退会者の増加などの厳しい状況を踏まえて、組織の拡充・強化に全県で取り組む必要性が改めて強調された。また、そ



〈会場入口にて〉

の後の表彰では、郡山支部の富永孝夫前支部長を含めて2名が退任役員表彰を、東白川支部が組織強化支部表彰をそれぞれ受賞した。富永前支部長には、平成29年度から令和5年度までの7年間、コロナ禍の難しい支部運営を担いリーダーシップを発揮していただいた。今回の受賞は私たち支部会員にとっても大きな喜びであり、これまでの長年の功績に対して感謝の意を表したい。

開会式に引き続き、「ふくしまのいま」現状から未来へ」というテーマで、県企画調整部政策監の佐藤彦氏による講演があった。当時、知事秘書官として最前線に立っていた佐藤氏だからこそ知りえる事実に基づいた話は、なるほどと感じ入ることも多かった。日々の生活の中에서도すると忘れがちになる震災の記憶を呼び起こし、「ふくしま復興」「新たな創造」に向けての様々な取組が、今後も着実に進んでいくことを改めて確認できた貴重な時間となった。

閉会式では、「福島大会」決議が全会一致で承認された後、次期開催となる成田正良北会津支部長より挨拶があり、盛会裏に幕を閉じた。

(事務局 小林)

文学・美術を巡る旅(北茨城)

退公連研修旅行

10月24日(木)、24名の会員の参加の下、退職公務員連盟郡山支部の研修旅行が実施されました。予報では曇りとのことでしたが当日は薄日差す絶好の行楽日となりました。

磐城自動車道を経て最初の見学会場は「野口雨情記念館(北茨城市歴史民俗資料館)」。玄関前に野口雨情の銅像があり、ここで参加者全員の記念写真を撮ろうとした途端、あの「シャボン玉」の曲が流れ両脇からシャボン玉が沸き上がりました。そんな楽しい仕掛けに会員一同びっくりしました。生涯に二千余りの童謡の作品を残した野口雨情は北茨城市の誇りであり、それだけに会場にはそんな様々な仕掛けと共に幼少期の懐かしい思い出に浸らせてくれるような楽しい資料が数多く陳列されており、もつと見ていたい気持ちのまま会場を後にしました。

「天心記念五浦美術館」へはバスで15分程でした。岡倉天心の名前は聞いたことがありましたが、どんな業績を残した方なのかははっきりとは知りませんでした。会場に入るとすぐに15分ほどの映画が上映されました。享年51歳という短い生涯ながら

もその生き方には胸を打たれるものがありました。晩年を過ごした「六角堂」は太平洋上に突き出た岩上に建つ朱塗りの建物でした。中には入れませんでしたがそこから眺める太平洋の海の青さは格別なものでありました。昼食は「いわき・ら・ら・ミュウ」で海鮮丼をおいしく頂きその後はショッピングを楽しむことができました。楽しい秋の日のひと時を過ごしたあつという間に一日が過ぎ去ったような気がします。来年もまたぜひ参加させていただきたいと思いました。

(渡辺)



〈野口雨情記念館前で〉

◆女性部◆

ふれあいコンサート

芸術の秋。10月9日(木)市中央図書館視聴覚ホールにおいて、ふれあいコンサートが開催された。

1部は、合唱クラブ「はるかぜ」による「唱歌で巡る日本の四季」と「この街で」などいくつかの愛唱歌を披露した。発足8年目の「はるかぜ」は素晴らしいハーモニーだった。2部はソプラノ独唱。歌手原千津子さん・ピアノ伴奏川村彰子さんによる「詩と音楽」をテーマに、美しい言葉にふれ、叙情的かつドラマチックな音楽の世界に誘われ魅了された。

最後に全員で合唱し、心豊かな余韻を残しながら終了した。



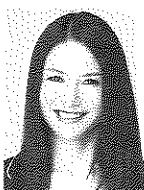
第23回福島県男女共生のつどい

市男女共同参画フェスティバルに

参加して

11月10日(日)、市制100周年行事でもあった標記タイトルの行事が、けんしん郡山文化センターで盛大に開催された。退公連郡山支部女性部は、行事の主催である郡山市女性グループ連絡会に所属している関係で実行委員のメンバーとして参画し、今年は郡山地区での開催となった。

郡山うねめ太鼓保存会小若組による勇壮な太鼓がオープニングを飾った。今大会のテーマである「多様性を尊重し合い輝く社会のために」のもとに、信州大学特任教授・弁護士でもある山口真由氏をお迎えし講演をいただいた。演題は「新しい時代の働き方」



〈山口真由氏〉

の働き方「自分らしく輝くために」。大変重いテーマであるが山口氏の体験を通しての想いを熱く語られた。男らしさ女らしさと分けられず、また縛られずに「一人

一人があらままでのままにいられる社会。弱いままでも、自分が輝ける場所が見つけられればそれで良い」との言葉が心に残った。多くの質疑応答もあり、充実した時間となった。来年は二本松市での開催となる。

(三瓶)

◆福祉部◆

教養講座(講演会) 9月12日

「郡山市の歴史」郡山市中央公民館

歴史研究家の角田栄八先生から、「群山市の歴史」について、江戸時代の郡山の商人・庶民の暮らしの様子と幕末・明治維新の志士を育てた朱子学者・安積良斎の生涯を中心に講演して頂いた。

郡山の地名の由来から、話は始められた。「701年大宝律令」制定の頃、陸奥国府(宮城県の大賀城)の安積郡(郡山市清水台)があり、周辺が「郡山」と呼ばれていた。この地名から現在の「郡山」の地名が生まれた。

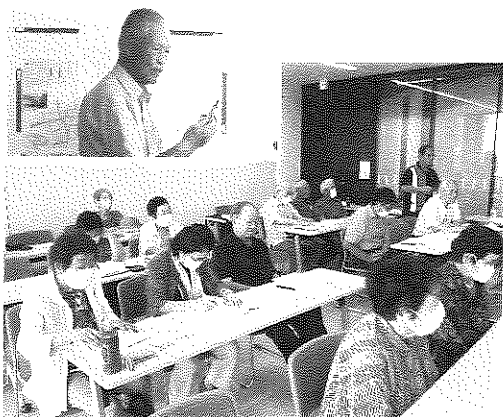
江戸末期の郡山宿は交通の要所で、人々の往来で旅籠や大店が賑わって財をなし繁栄していた。その郡山宿の様子を当時の地図で説明してくれたが分かり易かった。現在も話の中でよく聞く旧家の名前が出てきて、この時代から栄えていたのかと再確認!

繁栄している郡山宿には、二本松藩への上納金が増し、その負担が下層の庶民の暮らしに影響を及ぼした。貧困で日々の暮らしを支えるために、身売りまでして生きる庶民もあり、繁栄を支える庶民の悲惨な生活の事実も話された。

郷土の偉人安積良斎は寛政3年

(一七九一)に郡山市の安積国造神社、代55代宮司安藤親重の三男に生まれた。11歳まで、二本松藩の寺子屋で学び17歳で江戸に出て、儒学者佐藤一斎・林述斎に学ぶ。その後私塾を開き、幕府の昌平黉教授となり、その門人は二千人以上で吉田松陰・岩崎弥太郎・高杉晋作・前島密など著名な塾生だけでも200人を数えるという。万延元年(一八六〇)81歳没。幕末・維新の激動期の若者を育成し、歴史上の偉人の教育に貢献した良斎の生き方を学んだ。

角田先生は退職後、自分の趣味を生かして仲間たちと楽しく歴史を語り、研究を進めている方で、先生のお人柄がお話の各所に感じられ楽しい講演だった。(大越)



〈角田栄八先生と講義を聴く会員〉

わたしの近況・心境

—わたしの楽しみ—

老老学び

皆川 晃
(99方部)

「郡山自主夜間中学」とは…

シニア（高齢者）ボランティアグループによる市民への「学び直しの場」を提供する自主的な団体です。

「夜間」ではありませんが、受講生の要望に沿って朝から夜の時間帯で場所（公民館）を設定します。

現在、41講座、延べ115名の会員が、国語・数学・英語など、学びを楽しんでいます。講師は元教員から会社員、塾講師、主婦など多彩です。

たとえば英会話担当の講師は商社を経営していたたびたび海外出張するので、その場面ごとの会話の仕方をパターン化して学びを進めています。

私は日本の歴史を担当しています。講座は月2回（第2・第4週）で、次の授業まで2週間あるので、その間に疑問に思ったことや気になったことを出し合うことから始めます。

「戦争」の話になった時のこと、

縄文時代は争いの跡がないのに、なぜ弥生時代には争いが起きるようになったのか、という疑問から学びが始まりました。様々な考えの中で、移住（狩猟）生活から定住（稲作）生活へと経済的基盤の変化によるものという考えに至りました。

確かに私は学校教育や社会生活の中で知識を得てきたわけですが、なぜ「学び直しか？」ということですか。それは知識の蓄積・修正だけでなく、脳の活性化や心豊かな生活の希求といった精神的な安心感や満足感の獲得の機会になるからこそそのだろうと思っております。

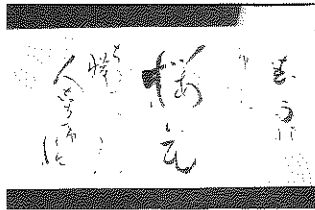
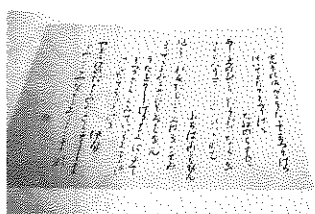
「老老学び」いかがですか？

人生楽あれば苦あり

菊池 ノリ子
(6方部)

私は県立病院の准看護師として、38年勤めて退職しました。男の子3人を育てながらそれはそれは大変でした。子供が具合悪くても夜勤の時も休めず、主人の義母が面倒をみていました。オペ室の責任者になった時、オペがあるから休めなくなり辛

い思いをした事が昨日のように思い出されます。県立三春病院が廃止になり5年残し55歳で退職しました。丁度母が認知症になり義兄と二人暮らしで夕食を作り届ける毎日でした。デイサービスを使い暫くしてショート入所をお願いし、週一回の面接では名前も忘れ可哀想に思いました。お世話になり92歳で永眠（合掌）。退職してから親孝行をしようと母を連れて浅香荘へ宿泊に。すると団体の方々の忘年会で「三心会」でした。退職して何かやりたい、習字もいいかなと考えていたのですぐ入会しました。早速子供が使った硯と墨を持って行き、初めは自分の名前が上手に書ければと軽い気持ちでいたら、とんでもない。今では変体かな文字を使い、和歌・短歌を書いていきます。右も左もわからず退公連女性部に入会。とても良い先輩方で話を聞いていると勉強になり、年を上手に重ねている事、私のお手本です。



ボランティア活動

慶徳 秀夫
(17・2方部)

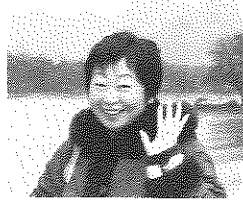
定年退職を機に、東京2025五輪の聖火ランナーと福島県シテイクヤストに応募し選出された。この時からボランティア活動という私の新しい人生の扉がひらいた。

東京五輪は、無観客開催となったため、東京五輪に来られない海外の方々にオンラインで観光案内を行うプロジェクトに書道の師匠を誘い応募した。幸いにして私たちの一時間の企画書が合格し福島県代表に選出された。その時、これで復興五輪の後押しができるという期待と喜びが湧いてきた。海外や国内の方々と英語でやりとりをしながら、県内の観光案内や復興の歩み、日本の伝統文化などを伝えた。この模様は全国のテレビでも放映された。このボランティア活動を経験したことで、五輪金メダリストやアナウンサー、歌手など著名な方々と同じステージに立つ機会を得て、自信と誇りをもてた。ボランティア活動そのものが充実感や生きがい、自己実現につながる大切な生涯学習であることを実感する

こともできた。

現在は、「魂に響くギフトコンサート」の会長として、県内及び京都の幼・保・こども園や小学校、高齢者施設などで音楽&運動をコラボした「出前教室」や「音楽コンサート」を主催している。その他にもスポーツボランティアのリーダーや自主夜間中学の書道講師として、スポーツや書道の楽しさを味わいながらボランティア活動を行っている。

先日、これから開幕する大阪・関西万博の会場ボランティアにも登録された。会場である大阪・夢洲でスタッフとして活動するのを楽しみにしている。



海外との関わりを通して

菅野 幹子 (61方部)

20歳の時、ホームステイを含む初めてのアメリカ旅行が、私の人生を大きく変えることになった。その後の六カ国13回のホームステイ体験から2つの出来事を紹介したい。

ロサンゼルスでのこと。週末にメキシコ旅行に行くことをホストファミリーに話すと、その家の2歳の娘が言った「I hate Mexican」(私、メキ

シコ人嫌い)にホストファミリーが大激怒!家から娘を閉め出し、人種差別に対して毅然とした態度で理解させていた姿が今でも忘れられない。

また、サンノゼのこと。他界した父のことをホストマザーに話すと、「娘にとつて父親は特別よね。」と70歳になる彼女は40年前に亡くした父親のことを昨日起きた出来事のように目に涙をためて話してくれた。その姿から、親子の愛は国境を越えても変わらないことを学んだ。

これらの体験から、英語を自立的に学習し、Tool(道具)として気持ちや文化を伝える楽しさを味わい、その国々の生活スタイルや人々の考えを見聞きして視野を広げて欲しいという気持ちで、私は中学生に英語を教えてきた。

その後、私は文科省と国立教育政策研究所での仕事を通して、日本文化が、衣食住どれも独特で素晴らしいことに気づいた。不屈の精神を伝える起き上がり小坊師、魔除けとしての赤べこ、和敬清寂の精神を大切にする茶道等。いつしか私は、退職後海外へ行き、日本文化の魅力を伝えたいと思うようになった。日本と世界をつなぐconnectorとして、何をするのようになることができるかを考えてワクワクしているこの頃である。

会員の作品

秋色のパネル

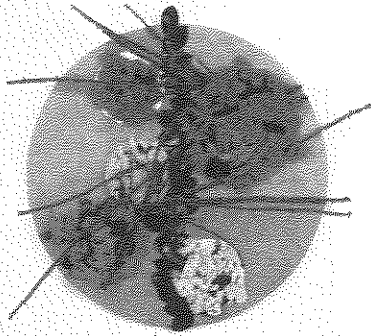


青砥 節子 (63-2方部)

土曜日は町に一緒に行こう。

と、初任地で誘われた華道教室見学が二十歳の私の生け花のスタート!!退職後、龍生派郡山支部メモリアル大会に出品した作品です。家元からの講評は本気で聞いた筈なのに内容は定かではありません。

作品の中心線は椿の葉の密着です。紫などの鶏頭でポリウムを出して自由に伸びる直線はニシキギです。



〈龍生派郡山支部 いけばな展〉

新入会員のお知らせ

令和6年度9月以降の郡山支部新入会員を紹介します。

・熊谷 光彦さん(9方部・並木)

お詫びと訂正

前号(第93号)の6ページの記事中、次の誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

(正) 関川 昭(誤) 関川 照

お悔やみ申し上げます

(令和6年5月)

富塚 栄助様

(令和6年8月〜7年1月)

佐々木秀夫様 高橋昭悟郎様

酒井 四郎様 望月 敏雄様

渡辺 一朗様 新明洋一郎様

橋本 栄子様 加藤紀久子様

石本 治様 渡邊 千子様

編集後記

年の瀬も迫った頃、神社の境内を散策していたら七五三参りのご家族に出会いました。男児は凛々しく、女児はとても愛らしく、どちらも純真無垢の健康優良児そのものです。世間を見渡すと若者を中心に犯罪が多発しています。成長と共に何がそうさせるのか。社会問題として皆で考えていきたいと思います。

広報委員

・鷲田 洋 ・渡辺 和宜
・佐藤ノブ子 ・齋藤 榮子
・大越 清美 ・武田 修一
・遠藤 佳子